

令和 8 年 全国広報コンクール受賞・入選作品（神奈川県内）の概要

【葉山町「広報葉山」12月号 <広報紙>】

【主な記事の掲載意図】

若者が安心して自分らしく生きられる町を目指し、町民一人ひとりが自分にできることを考えてもらえるよう、特集記事「選べる未来をすべての若者に」を掲載しました。「18歳の壁」とも呼ばれる制度の空白は、日常の中では見えづらく、当事者も周囲も気づきにくい課題です。そこで福祉の専門家や支援団体の方に取材を行い、現場で実際に寄せられる若者の声や、支援の現状についてお話を伺いました。「困っていても声を上げられない若者がいる」という現実を取り上げ、その声に気づくためには、町民皆さんの小さな行動から始められるということ呼びかけています。また、「人権」という言葉に堅苦しさを覚える方もいるかもしれませんが、「人として大切にされること」は特別なことではなく、日々のあいさつや相手を信じる姿勢といった小さな行動の積み重ねから育まれるものだということを人権擁護委員の方へ取材しました。制度や支援体制の整備とあわせて、そうした日常の積み重ねが課題の解決につながることを伝えています。

今回の特集記事では、制度の紹介だけでなく、地域の中にある見えにくい課題をすくい上げ、町民同士のまなざしや関わり方を見つめ直すきっかけとなるような紙面づくりを心がけました。今回の記事が、若者を取り巻く現実に目を向け、誰かの「助けて」に気づききっかけとなることを願っています。



【講評（令和 8 年全国広報コンクール）】

表紙の美しい夕日を眺める若者の後ろ姿の写真が、せつなさと寂しさを感じさせる。若者についての特集につながっていくが、「18歳の壁」という結論の出づらい難しいテーマにチャレンジをした点がよかった。その姿勢を高く評価したい。

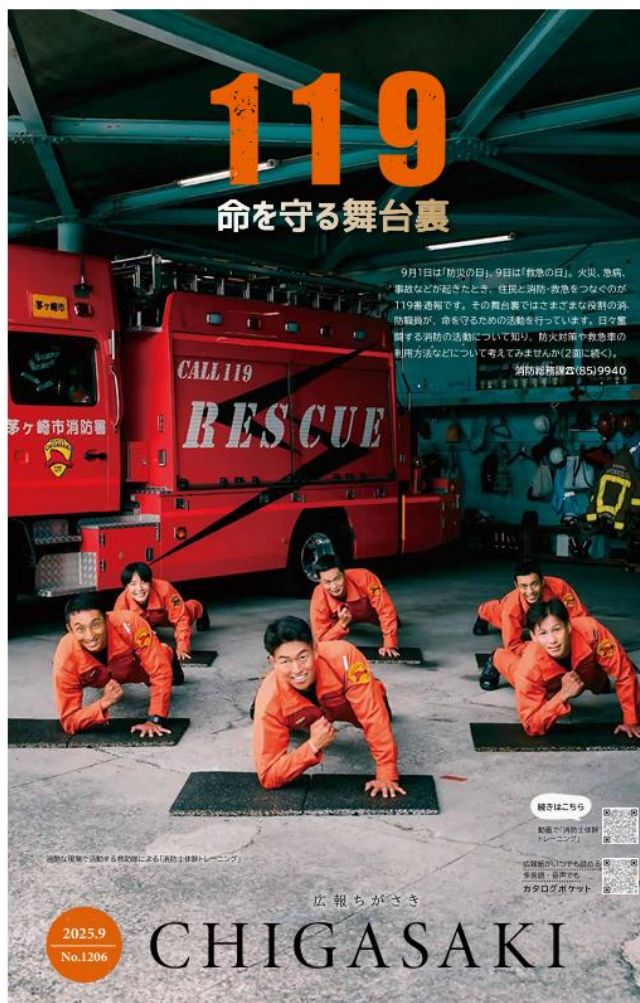
若者の生きづらさについて調査しまとめた深刻な内容が記載されている。個人の活動に光を当てながら、行政側の方針や長期軸での対応も丁寧に紹介され、その姿勢には共感が集まったのではないかな。

書体がゴシック体で統一されており、広報紙全体が親しみやすく手軽に読める印象にまとまっている点も良い。美しい葉山の夕日をとらえた写真や、紙面にリズムを作るマーキングやポイント強調によるデザインも広報紙全体の魅力を高めている。

【茅ヶ崎市「広報ちがさき」9月1日号 表紙 <一枚写真>】

【掲載意図】

消防隊員のトレーニングの一場面を捉え、「命を守る舞台裏」を象徴的に撮影しました。隊員たちの動きと背景の車両をバランスよく構図に収めました。屈強な隊員の姿と天井の梁をリンクさせることで力強さを表現し、F値6.3に設定することで、被写体全体に適度な深度を持たせつつ、背景の防火衣やヘルメットを静かに映り込ませたことで、日々の緊張感と使命感を表現しました。ISO200で自然光を活かした柔らかい質感を保ちながら、ティールアンドオレンジの色使いにより、隊員の存在感と救助車両の鮮烈さを際立たせ、視覚的に印象深い構成としました。さらに紙面に掲載されたQRコードからは、訓練の全編動画へアクセスできるクロスメディア展開を実施。静と動を融合させ、広報紙の枠を超えて市民に消防の現場を体感してもらうことを狙いとして撮影しました。



【講評（令和8年全国広報コンクール）】

消防隊員の鍛え抜かれたトレーニング風景をとらえた一枚。「オレンジ（救助隊）」の強靱な身体性は、静止画からも圧倒的な説得力をもって伝わってくる。

命のテーマに沿って、隊員たちを上手に配置して写真に織り込んでいる。背景との明暗差や消防車、隊員のオレンジ色のコントラストを生かし、視覚的なインパクトを生み出している。構図においても消防車をあえて見切ることで安定を崩し、画面に適度な緊張感を与えている点が効果的で、訓練の臨場感もよく伝わってくる。

隊員の熱量を直感的なモチーフとして提示することで、読者を立ち止まらせ、ページをめくらせる強い動機付けに成功している。価値ある表紙写真だ。